

早いもので今年も3月の半ばを過ぎ、春の暖かさを感じる季節になりました。
冬が寒かったので、いっそうありがたく感じます。

現在会員登録数 2,604 人さま。次号は4月20日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 91

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

●「第34回 日産 童話と絵本のグランプリ」入賞作品決定

全国のアマチュア作家から寄せられた創作童話 2,508 編、絵本 485 編、
計 2,993 編の中から、入賞作品 37 編が決定しました。

・童話の部大賞『ぶうぶうママ』小路智子 さん

・絵本の部大賞『こぐまのアーリーとあかいぼうし』わだあい さん

上記の2作品は、後日、絵本として出版されます。

◇入賞作品展 3月25日（日）まで開催中

大阪府立中央図書館 国際児童文学館展示コーナー（東大阪市荒本）

開催日・時間は、上記館の開館日、時間に準じます／ 入場無料

→ http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。
寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

【2】コラム

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『グドーさんのおさんぽびより』 たかどのほうこ/著 佐々木マキ/絵
福音館書店 2018年2月 対象年齢：小学校低学年以上

あらすじ：グドーさんとイカサワさんという二人のおじさんと9歳のキーコちゃんの三人の一年間のユーモラスなエピソードがつづられた作品。春、バスを乗り間違えて閉園間近の動物園に来てしまうグドーさんと、どの動物よりぼーっとした自分の顔に気づいて動物園から出てきたイカサワさんが出会う「ぼーっとした友だち」から始まり、一年たって三人でおさんぽに出かける「また春が来て」まで20編が収録されている。（初出は2015年10月～2017年3月にWeb福音館で掲載）

Y：大人も子どもも楽しめる幼年文学作品です。

T：子どもは読んでもらって楽しい本だと思いました。この本が何よりおもしろいのは、いわゆる事件が起こってそれが解決するというようなお決まりの物語になっていないところです。たとえば、「深まる謎」では、グドーさんがイカサワさんとキーコちゃんに貸したはずの『深まる謎』という本のことを問合せます。ところが結末は、探していた1冊の本が見つかったという単純なものではありません。

Y：結末を読むと思わずにやりとします。そういう意味でこの本は私たちの常識や堅い頭を笑い飛ばしているおもしろさがありました。たとえば、グドーさんとイカサワさんが音楽会で楽しみにしていることだったり（「ウアカリさんとインドリさん」）、グドーさんが抽象画を描いて市民芸術祭に出した結果だったり（「ツロワマのダソヌ？」）は、常識では考えられなくても誰しもあり得ることだと思いました。

T：「そりあそび」でチャーホフの作品を引用しながら、現実の世界はチャーホフの作品のようにはいかないという描かれ方も同じようなおもしろさがあります。

Y：そうはいつでも、作品の中には音楽、美術、文学などがふんだんに出てきて、それらの芸術を「遊び」の延長として描いている点に共感しました。

T：楽しい名前のあるおじさんと好奇心旺盛な子どもという三人組もユニークです。

Y：グドーさんは GOOD DOUGH（よいパン生地）という意味でしょうか。人のよさと柔軟性が感じられます。三人の間にどんなに思い違いがあっても、一緒に散歩する時間が楽しいという友だちのよさが伝わってきました。

T：佐々木マキさんのユーモラスで無国籍的な絵が、物語らしい文体ながら実は物語らしくない作品とうまく調和していっそう楽しい本に仕上がっています。

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第31回「銀河鉄道の夜」（その2）

父を取り戻すまでの物語

今回も「銀河鉄道の夜」を取り上げます。

前号で馬車別当さんは、この物語をジョバンニが「牛乳を手に入れるまでの物語」としました。それになぞらえて言うならば、ジョバンニが「父を取り

戻すまでの物語」とも言えるのかもしれませんが。

本作は、死者を乗せ、天上へと向かう銀河鉄道において、孤独な少年ジョバンニが水難事故死した人たちと乗り合わせる物語です。なかでも、ザネリを助けて溺死した親友カムパネルラとの別れが中心的なモチーフの一つと言えます。

そのジョバンニの孤独は、冒頭の章「一、午後の授業」で〈このごろはジョバンニはまるで毎日教室でもねむく、本を読むひまも読む本もないので、なんだかどんなこともよくわからないという気持ちがするのでした。〉と示されますが、その背後、理由の一つに「母の病気」とともに「父の不在」があることはおそらく否定できません。原稿の初期の形態では、ジョバンニの父は、密猟船に乗船、かつ人に怪我を負わせたために、遠くのさびしい海峡の町の監獄に入っていて不在とされています。

「ジョバンニの振舞いや考えのすべての源泉であり、また根本理由になっているのに、作品のなかでの役割は〈不在〉という役割」とは、吉本隆明の言葉です（「ジョバンニの父とは何か」1983年）。

存在感を示しつつ、しかし不在である父。結末、カムパネルラの死を知る一方で、父がまもなく戻ることが（カムパネルラの父から）語られます。ジョバンニは父を取り戻すことで、明るい生活をも取り戻すことができるでしょうか。

未完となった本作の改稿過程を見ると、父に関する表記が次第に抑制され、より抽象化されていくようです。先の吉本は、「ジョバンニとその母との会話に浮かびあがったジョバンニの父は、それほど鮮明な画像をむすんではない。むしろ焦点が合うことが避けられているようにおもえる」とも述べています。

初期の段階では存在しなかった母との会話を「最終形」で書き加え、物語には登場しない父の話も現実にも母と交わらせた一方、ジョバンニの父への思いを抑えていった賢治。この改稿は、実生活における父子の信仰上の葛藤や、また父に庇護されたことへの負い目などを普遍化させるものだったのかもしれませんが。（ペ吉）

（本文の引用は、新潮文庫版『新編 銀河鉄道の夜』によりました。）

《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 91

その11 さまざまなご質問にお答えします (9) おはなし会について

質問：おはなしの途中で、次の言葉を忘れてしまったら、どうすればいいですか。

おはなしをしっかりと覚えていたつもりでも、子どもの前で話している途中で、頭が真っ白になってしまって次の言葉が出なくなることがあります。

当然ながら、そうならないために、しっかり練習しておく必要があります。その時、文言を間違えないように覚えるだけではなく、おはなし全体を把握し、筋の運びを頭の中で整理し、それぞれの場面のイメージを自分の中で作っておくことが大切です。

また、決めゼリフや呪文など、絶対に忘れてはいけない言葉は特に何度も練習しておくようにします。そして、道を歩いたり、電車に乗ったり、片づけをしたり、何かをしながらおはなしを復習し、途切れても、またその続きから語れるようにしておくこと、集中しなくても自然と口からおはなしが出て来るまで練習することが大切です。

それでも人間ですから忘れることはあります。その場合は、「すみません」「まちがえました」などと言ったり、何度も同じ場面を言い直したりせずに、頭の中で場面を思い浮かべてともかく、おはなしを語り続けます。聞いている子どもたちは間違っただろうかはわからないので、おはなしとしてつじつまがあうように、自分の言葉で語ります。すると、また、心が落ち着いてきて、覚えているおはなしに戻ることができます。

おはなしは聞き手とのコミュニケーションで成立するものです。昔話の採録集などを見ると、同じ人が同じ題名のお話を語っていても時によって違う語り方や内容であることが見られます。そういう意味では、間違いを恐れ過ぎず、聞き手とのコミュニケーションを大切にすることが語り手も聞き手も楽しめると思います。

* 次号は「その 11 さまざまなご質問にお答えします (10)」の予定です。
ぜひ、ご質問やご意見をお待ちしております。(Y)

《4》 行って来ました！

大丸ミュージアム京都で4月3日まで開催されている「MOOMIN (ムーミン) パペット・アニメーション展」に行ってきました。「ムーミン」はフィンランドの作家トーベ・ヤンソンが挿画も手掛けた作品ですが、この展覧会ではヤンソンが監修に関わった、1978年から1982年にポーランドで撮影されたパペット(人形)・アニメーションについて紹介されています。

中に入ると、ムーミンシリーズの原書の表紙絵を奥行きのあるように表現した大きなパネルがずらりと並んでいます。それぞれのあらすじが添えられていて、ムーミンの世界に一気に誘われます。ここは写真撮影が可能で、子どもも大人も楽しんでいました。

私が一番興味深かったのは実際に撮影に使用された、ムーミンパパやムーミンママ、じゃこうねずみなどの十数点のパペットとアニメーションの仕掛けを説明したコーナーでした。それぞれのパペットにはどんな素材を使っているかが書かれていて、ムーミンパパは木とベルベットとあります。大きさは10~15cmくらいで、ぬいぐるみのような形ではなく、人形の背面は平たくなっています。

それは、何層かになったガラスを重ね合わせてそれぞれのガラスの上に背景や前景を分けて奥行きを出し、パペットもガラスの上に置いてコマずつ動かして、上から撮影しているからです。数分ずつ上映されている「ムーミン谷の夏まつり」「ムーミン谷の彗星」「ムーミン谷とウィンターワンダーランド」の映像をみて、登場人物たちの表情や動きをよりリアルに感じることができました。

展示の最後には2017年にフィンランドのタンペレ市に開館した「ムーミン美術館」の紹介があり、いつかフィンランドにムーミンを訪ねてみたいと思いました。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 大阪国際児童文学館を語る会・考える会 in大阪

第1部 記念講演

『学校がなくなった日』をめぐって～中国の子どもたちと戦争～

講師：中 由美子（中国語の児童文学翻訳者）

第2部 参加者との意見交流会

日時：4月15日（日）午後1時30分～4時

会場：ドーンセンター 大会議室1（大阪市中央区大手前）

参加費：有料 申込み：必要

主催：大阪国際児童文学館を育てる会

後援：大阪国際児童文学振興財団／大阪府子ども文庫連絡会

● 第28回箕面手づくり紙芝居コンクール 作品募集

募集期間：4月15日（日）～5月15日（火）必着

募集規定：アマチュアの手作り作品に限る、ほか

募集部門：・ジュニアの部（作者・画家・演者とも小学生・中学生の作品）

・一般の部A部門（当コンクール入賞経験者）

・一般の部B部門

主催：箕面市教育委員会／人と本を紡ぐ会

問合せ：箕面市立西南図書館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『グドーさんのおさんぽびより』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.91 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は4月10日(火)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

今年の桜は急ぎ足、大阪の開花は明日らしい。せいぜい1週間ほどの見頃を逃してはならない、と心する。お花見は、良いコトばかり。ちらほら、二分咲きは先取り気分を満足させる。満開の桜の下での弁当は華やいで楽しい。夜桜は、まだ寒いが醜いところを暗闇が隠してくれる。花吹雪、風に舞う花びらの美しさは譬えようが無い。それが川面に落ち、はかなく流れるさまを見て…わが人生を振り返る。ああ、今宵も乾杯！（A）

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
